

# 地盤工学会におけるダイバーシティの実現

Promotion of Gender Equality and Diversity Management in the Japanese Geotechnical Society

工 藤 里 絵 (くどう りえ)

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会 委員長, 応用地質科

## 1. はじめに

地盤工学研究発表会では、男女共同参画及びダイバーシティに関するセッションを2005年以来継続して実施している。10回目となる本年は、“地域に根ざしたダイバーシティ”というテーマで、土木学会、土木技術者女性の会との共催で一般公開の特別セッションを実施した。なお、当セッションの様子は北九州市の市政ニュース番組で放映された。

## 2. セッションの概要

特別セッションは、大会1日目の7月15日午後に行われた。参加者総数は54名と例年より多く、この分野への関心の高まりがうかがえる。参加者に対して実施したアンケート調査によると、男女比は概ね半々で20代から60代以上の幅広い年齢の方にご参加いただいた。

### 2.1 ダイバーシティ推進の先にあるもの

まず、男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会の活動内容を紹介した。委員会ではこれまでに、座談会やアンケート等による会員ニーズの把握、研究発表会における託児所の設置や女性会員の交流促進のための「サロン・土・カフェW」の開催、ダイバーシティ促進のための会費減免措置の周知と評価など、学会の魅力を高めるための様々な取り組みを行ってきた。最近はダイバーシティの意識の浸透・定着のために、広報委員会と連携し Facebook を介した情報発信も積極的に行っている。委員会活動も5年目となり、目に見える成果も始めている。例えば、次世代育成のために参加している女子中高生夏の学校（主催：御国立女性教育会館）では、昨年度の人気投票で34学会中3位入賞という高評価を得た。また、当委員会と土木技術者女性の会が協力し土木学会から出版した「継続は力なり—女性土木技術者のためのキャリアガイド」はマスコミ等でも大きく取り上げられ、2014年度の国土交通白書でも紹介されている。

地盤工学会が企画部において男女共同参画に取り組み始めてから10周年となる来期は、地盤工学会誌における「ダイバーシティ小特集」やwebでの継続的な技術者紹介など、新たな取り組みを始める予定である。

### 2.2 いきいきと働くライフバランスを目指して

九州地方整備局の原田佐良子氏には、九州地整に所属する女性技術者の会である「九WE会」の活動についてお話いただいた。「WE」という言葉には、Women

Engineerの他に、WE：私達みんなで（協力して乗り越えよう）、Enjoy With（一緒に楽しむために）という思いが込められているそうである。九州地整の魅力向上といきいきと働ける職場づくりを目標に技術者をめざす女性への支援活動や情報発信、他の女性技術者団体との意見交換、社会資本整備に関する女性視点からの提言などを行っているとのことである。行政でかつ技術者の立場、そして、地域に根ざす女性としての立場、この2つの視点を生かして、地域の方々が安全安心に暮らせ魅力あるふるさとづくりを目指したいという「九WE会」の意思是、地盤工学を通じた社会貢献を活動目的の一つとする地盤工学会に所属する女性会員にも参考になるのではないだろうか。

原田氏はワーキングマザーとして多忙の日々を送っているが、丁寧にだしを取った和食中心の食生活で健康に留意し、お子さんとの時間も大切にしているとのこと、演題のとおりとてもいきいきとした様子がうかがえた。

### 2.3 「わたし」を考える—ダイバーシティの中の自分

エネコム㈱の清崎淳子氏は、結婚を機にそれまでの職を辞したものの、子育ての合間に非常勤で民間企業の業務に携わると同時に大学の博士課程に進み、学位と技術士を同じ年に取得したという経歴をもつ。清崎氏からは、自分の立ち位置をどういう視点で捉えるかという話の中で、地域支援と人材育成の取り組みを紹介いただいた。1つ目は、温泉地におけるエネルギーセキュリティと防災リテラシーの向上による強い地域づくりである。地質から受ける恩恵（地熱・地下資源）や防災を地域住民に自分達のこととして理解し継続的に取り組んでいただくために、相手の目線で一緒に考え、相手の理解が進むように工夫することに重きを置いているそ



写真—1 原田佐良子氏



写真—2 清崎淳子氏

うである。2つ目は高等専門学校との共同研究である。地熱発電所に関する立地環境評価や住民意識調査を一緒に行う過程で、地熱に興味のなかった学生達が研究意欲を持ち、学会発表するまでに成長したとのことである。

結婚・出産、育児、研究に仕事とパワフルに活動している清崎氏が肝に銘じていることは、戦う相手は自分自身であるということ、また、実現できるのは「100+100の200ではなく50+50の100でしかない」ということだそうである。様々な制約の中で最大限の自分を生かす小さな積み重ねを大切に、また、周りへの感謝の気持ちを忘れない清崎氏の姿勢は、私を始め聴衆に元気を与えてくださった。

## 2.4 若手ワールドカフェ開催報告～学会の未来を若手が拓く～

学会の将来を担う若手の意見・要望をきめ細かく吸い上げることは、魅力ある学会を実現するためには必要不可欠である。実務者を対象とした昨年に引き続き、本年は研究者を対象とした若手ワールドカフェを実施した。その成果について（一財）電力中央研究所の渡邊保貴氏に報告いただいた。参加者は非会員を含め約30名である。ワールドカフェに先立ち実施した事前アンケートからは、日ごろの業務に学協会の委員会活動が加わることでワークライフバランスを阻害されている若手の存在も見えて取れた。このような現状を踏まえつつ、「将来の魅力ある地盤工学会のビジョン」と「そこに至るためのアイディア」をテーマに、お茶とお菓子をいただきながら自由に対話を行った。

その結果、他分野と交流できる場、日本だけが発信できる情報の国際的発信、会員であることがステータスになる学会、委員会の合併・削減（スクラップアンドビルド）、新イベント「土コンテスト」など、ワールドカフェならではの自由な発想で様々なキーワードが提案された。詳細は委員会HPを参照いただきたい。

渡邊氏はまとめとして、限られた人材のパフォーマンスを最大限引き出すためにはやるべきことを絞ることも必要であり、また、若手が継続的に議論を続けていくことが大切であると締めくくった。

## 2.5 シニア層活躍についてシニア層が考えていること

西日本技術開発㈱の木寺佐和記氏からは、九州支部が実施したシニア会員交流会並びに、シニア層活躍の事例として、九州郷づくり共助ネットワーク研究会の取り組みを紹介いただいた。

シニア会員交流会では、経験を伝えたい・伝えるべきというシニア会員からの要望に対し、「一皮むけた経験」

「ここだけの話」「今だから話せる」「失敗例の披露と学んだこと」をコンセプトとしてシニアが気軽に経験談を伝える機会を学会主催でもつことや、これらの経験談をデータベース化して学会の財産とすることなどが課題として挙げたそうである。経験談を伝える企画は支部で早々に開始予定とのことなので、是非、地盤工学会全体で情報を共有したいと考える。

一方、九州郷づくり共助ネットワーク研究会は、建設コンサルタンツ協会九州支部の活動であり、中山間地域と都市部の交流実現や地域貢献などを目的としている。シニア技術者が中心となり、地域支援ができればという思いから活動を始めたそうだが、地域の方々から逆に学ぶことも多く、また、おもてなしに元気をいただいているそうである。「行動することが重要：行動すれば出会いがあり、共に学び、成長できる」という木寺氏の言葉は、シニア層に限らず私達も心に留めておきたい。

## 2.6 討議・意見交換

今年も多くの方から貴重なご意見をいただいた。男女共同参画に関しては、女性が少数派のデメリットを乗り越えるためには女性同士のネットワークの力が重要である一方、男性に意識を変えてもらう取組も必要であるとの意見をいただいた。若手・シニア対策については、委員会活動が若手会員のワークライフバランスを阻害しているという現状は本末転倒であり、役割に偏りがあるのなら経験を生かして学会に貢献したいというシニア会員とのバランスを考えることが重要であるとのこと意見をいただいた。また、委員会の課題として、ダイバーシティ推進の地域間格差の解消などの意見をいただいた。これらについては、今後、他の委員会や支部と連携し取り組んでいく予定である。

## 3. ダイバーシティ推進に向けて

地盤工学会が男女共同参画・ダイバーシティの推進に取り組み始めてから10年がたつ。仲間が増え活動の領域が広がるに従い、ダイバーシティの意識が、極めてゆっくりではあるものの、学会内に浸透しつつあると感じている。ダイバーシティの推進は一朝一夕には成しえない。地盤工学会が様々な立場の方にとって役にたち個性を生かせる場となるよう、柔軟に社会や会員のニーズの変化を汲み取りつつ、10年、20年スパンで活動を展開していく必要がある。支部との連携や外国籍の方々への配慮等すぐに取り掛かるべき課題も多い。我々の活動に協力いただける委員、サポーターは常時募集中である。是非多くの会員に仲間になっていただきたい。また、学会への期待、不満、要望等も是非委員会宛にお届けいただければ幸いである。

（原稿受理 2014.8.18）



写真—4 木寺佐和記氏



写真—3 渡邊保貴氏  
（ダイバーシティ委員）